# 第２回インフォメーション・ヘルスＡＷＡＲＤ『アイデア部門』　応募用紙

**○タイトル　情報空間にまつわるトラブル共有プラットフォームの提案　～Oops Hub～**

**○応募者氏名**
**　または　グループ名　モノづくり大作戦**

**○解決したい情報環境をめぐる課題**

アテンションエコノミーに基づいた投稿があふれる現在の情報空間において，取得する情報が信頼できるものかどうかや単に注目を集めることを目的としているかなどを見極める能力の必要性が高まっている．しかしながらその能力を高めるための方法は開発されているとは言い難く，個々人が情報空間において不利益を被ることが増えている．

いまだ体験していない不健康な状態を他者の経験を通じて知っておくことは，自分の健康を守る方法を知るのに重要であろう．これと同様に，情報空間において様々な被害が起こってしまっている現在では，個々人が体験したことをコミュニティ全体で共有しておくことが重要である．共有することによって，自分が初めて見る情報であっても他者の経験に基づいてより正しい判断が出来るだろう．一方でそのような体験を共有するためのプラットフォームが存在しないことは大きな課題である．

**○アイデアの具体的な内容（どんなもので、どんな人が、どう使うと、課題が解決できるのか）**

●どんなもので
伝え手が失敗談を提供し，読み手が提供された失敗談に触れるプラットフォーム.

●どんな人が
情報空間に触れる全ての人が

●どう使うと課題が解決できるのか
情報空間でのトラブルを追体験することで，初めて見る情報であっても他者の経験をもとに適切な判断を下すことができるようになる.

●詳細
i. コンセプト
この情報共有のプラットフォームでは，伝え手が情報空間で起こったトラブルについて Where，Result，Turning Point の形でまとめる. まとめられた記事を読むことで読み手はトラブルを追体験できる.（具体的なインターフェースについては別資料を添付した.）
Where：原因となったプラットフォームや SNS は何か. ex）TikTok，Facebook，X
Result：現在の自分がどうなってしまったのか. ex）生活リズムが崩れた，詐欺にあった，トイレットペーパーを買い貯めた
Turning Point：この時ああすればよかったという後悔がある時点. ex）寝るべきなのに夜遅くまで TikTok を見ていた時

ii.伝え手の投稿
伝え手は Where と Result の欄を埋めることで端的にトラブルをまとめる. Where の欄に入力されたプラットフォームや SNS がタグとなり，Result の欄に入力された体験談がタイトルとなる.
その後でトラブルを文章としてまとめ，そのどこか Turning Point だと思うところを指定してそれについての改善点を書く. ex）夜遅くまで TikTok を見ずに早く寝る習慣を保つべきだった

iii.読み手のできること
読み手は①投票，②Turning Point とその改善点の追加，③目から鱗ボタン・経験アリボタンを押すという3つのアクションを取ることができる.
① 投票する：
読み手は，伝え手の Turning Point についての改善点に投票できる.
ex） 夜遅くまで TikTok を見ずに早く寝る習慣を保つべきだった Yes（81%）／No（19%）
② Turning Point とその改善点を追加する：
読み手は，伝え手の文章の別の箇所で Turning Point だと思うところとその改善点を追加できる.
ex）「寝るべきなのに夜遅くまで TikTok を見ていた時」「夜遅くまで TikTok を見ずに早く寝る習慣を保つべきだった という元々の Turning Point と改善点に加えて，「スクリーンタイムの機能を活用しなかった」「スクリーンタイムの機能を活用すべきだった」等の他の Turning Point と改善点を追加することが出来る.

③目から鱗ボタン・経験アリボタンを押す
今まで経験したことがないけれど参考になった Turning Point の改善策については目から鱗ボタンを押し，自分も経験したトラブルについては記事に経験アリボタンを押すことが出来る．
これらのボタンが押された総数によって，トラブルの性質を見ることが出来る．目から鱗ボタンの総数が多いものは有効な解決策を提示しているものであり新しい視座を提供するだろう，経験アリボタンの総数が多いものは，トラブルに巻き込まれた人が多いものであることを示す．

iv.期待される効果
匿名のプラットフォームであるため参加するハードルが低く，共有知を形成しやすい．
伝え手と読み手が自身の行動を振り返る機会を得られ，双方の行動を通して新しい予防策を見付けられる可能性がある．特に読み手は自分にも起こる可能性のあるトラブルを知っておくことで，もしもの場合の対応を考えることが出来る．

**○アイデアは未発表のものかどうか。すでに「試作」「試行」している場合は、新たに付け加えたいアイデア（ブラッシュアップするポイント）など**

未発表のものである．

**○アイデアを思いついたきっかけ**

どのような状態がインフォメーションヘルスなのかを議論する中で，アンヘルスな状態をヘルスな状態に戻す対症療法的なアプローチではなく，健康な人が不健康に陥らないという予防的なアプローチも必要であると考えた．この健康の実現には，自分が情報に接した際にその情報について取捨選択・判断する能力（情報リテラシー）がある状態が必須である．
情報リテラシーが高まるのはどのような時かを考えたところ，一方的に教育される時よりも，自分で何かをやってみて成功や失敗等の経験をした時にリテラシーが高まるという考えに至った．しかし，実際に失敗してしまっては被る被害が大きすぎる．そこで，他人の失敗談を聞くことで疑似的な経験を得て，その体験を学んで判断を誤らないよう準備できればいいなと考えた．
せっかく失敗談を共有するのなら多くの人の話を集めて共有知にしたいと考えたため，具体的なアイデアは上記のような形にまとまった．

# 情報空間にまつわるトラブル共有プラットフォームの提案
# ～Oops Hub～

モノづくり大作戦

# はじめに

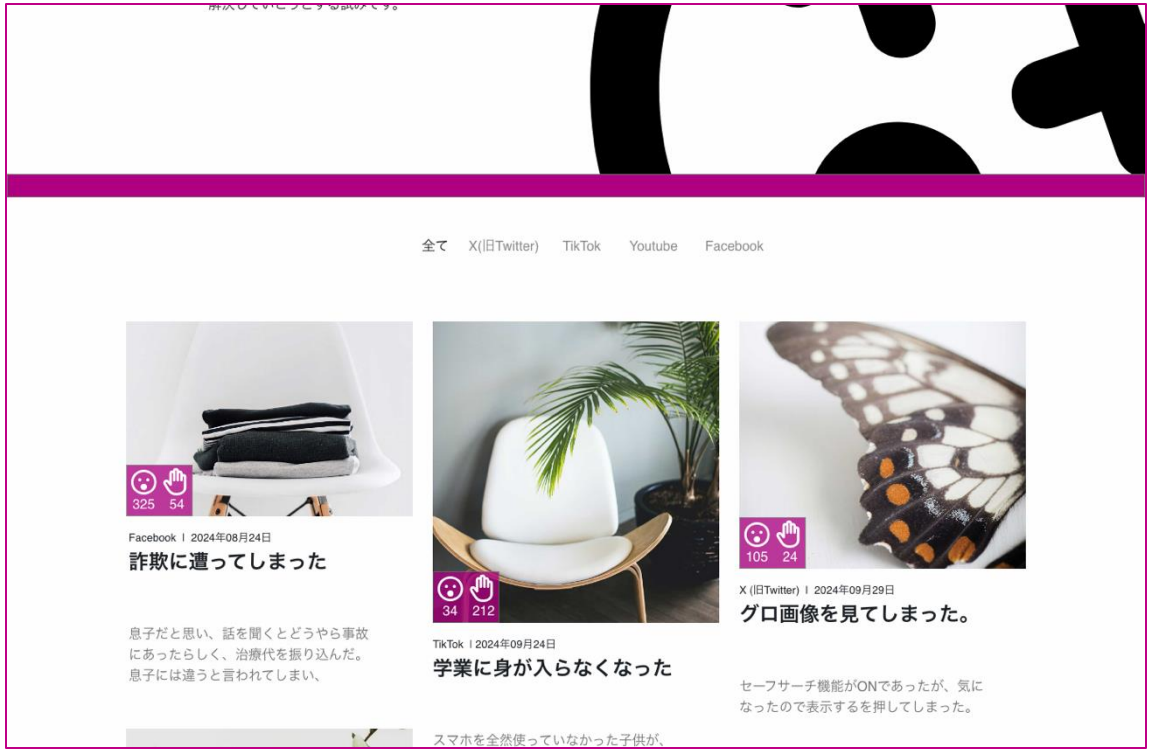
**伝え手**が情報空間における失敗談を提供し、**読み手**がそれらに触れるプラットフォーム。

情報空間でのトラブルを追体験することで、初めて見る情報であっても他者の経験をもとに適切な判断を下すことができるようになる。

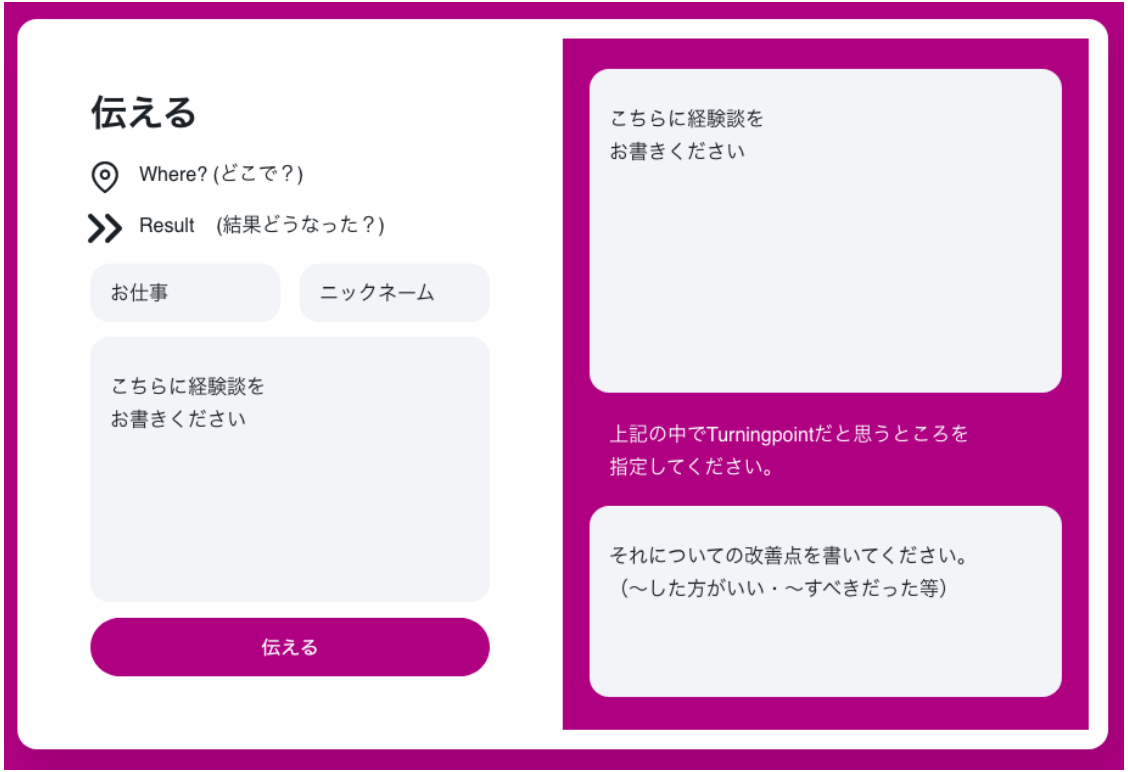
# Oops Hub のイメージ

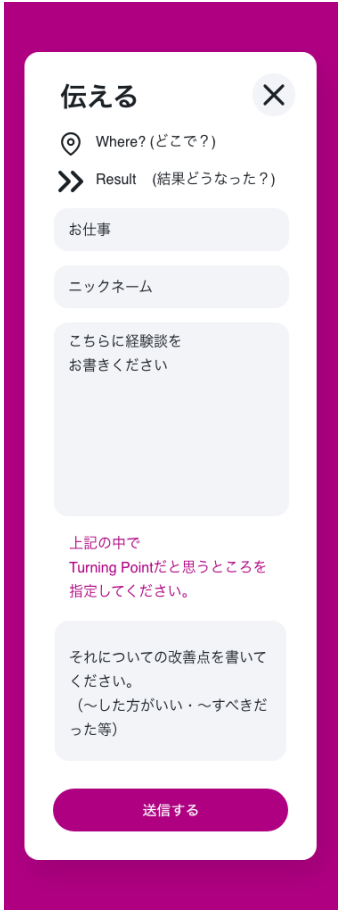
# Oops Hub　～読み手視点～

# Oops Hub　～読み手視点～



# Oops Hub　～伝え手視点～



# Oops Hub

## ～共有～

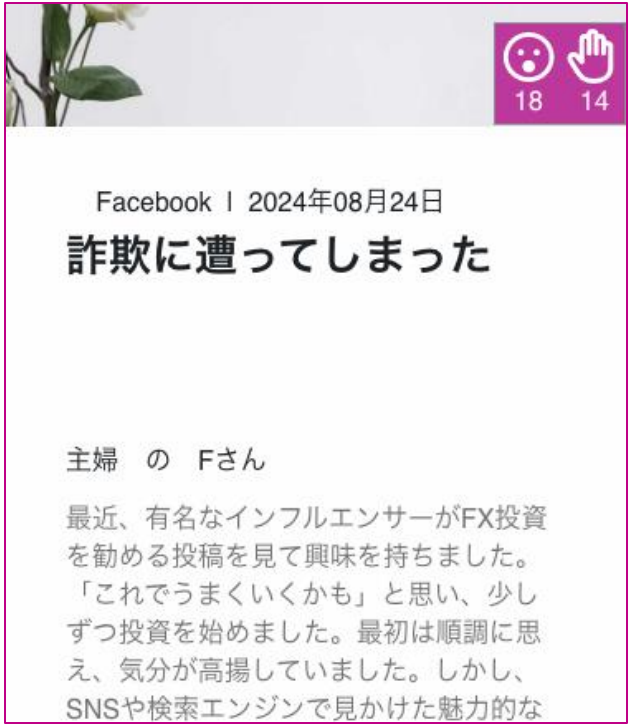
105
24
X (旧Twitter) I 2024年09月29日
グロ画像を見てしまった。
高校生　の　Jさん
推しの、プライベートの写真が流出しているというのを聞いて、X(旧Twitter)にて血眼になって探していました。
ようやく見つけたと思って、画像を確認しようとしたところ、セーフサーチで画像が表示されませんでした。
推し活をしているみんなにも共有しようと思って、いいねとRTを即座に行いました。
そのあとで、あまりに気になったのでセーフサーチを外して、「表示する」ボタンを押してしまいました。
すると、今までに見たことないようなグロテスクな画像が表示されて、非常に不快な気持ちになりました。
24
流出写真を探してはいけない
22%
78%
62
いいね・RTをすぐにしてはいけない
17%
83%
34
安易にセーフサーチを外してはならない
9
Turning Point

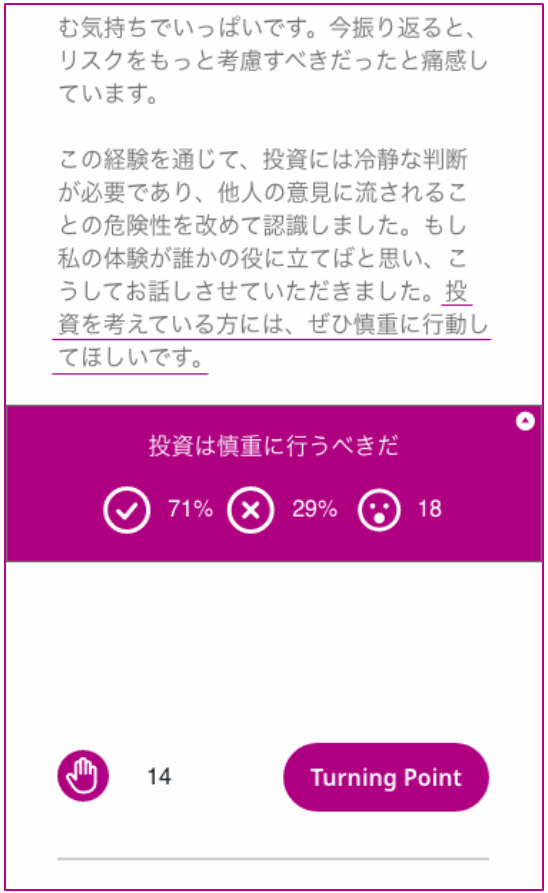
# Oops Hub　～共有～

**記事の様子**

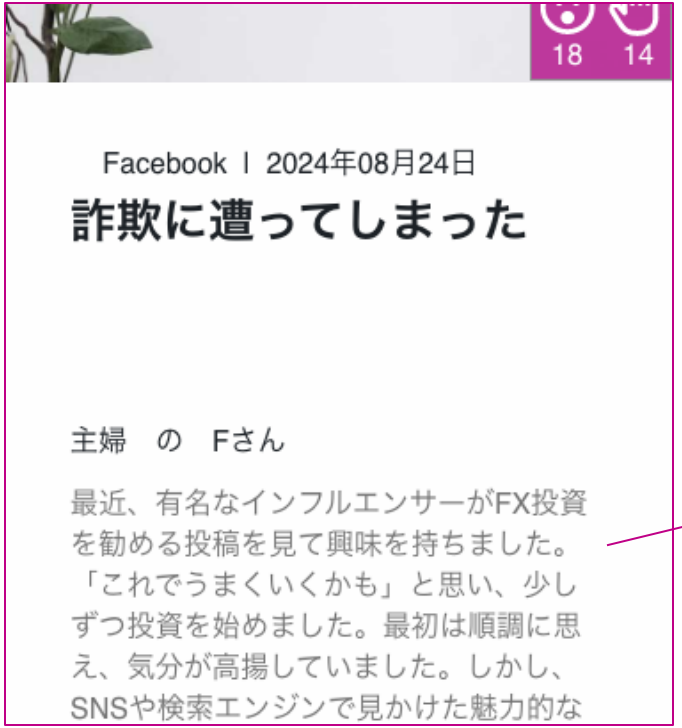
伝え手が指定した点で

投票が行われている。

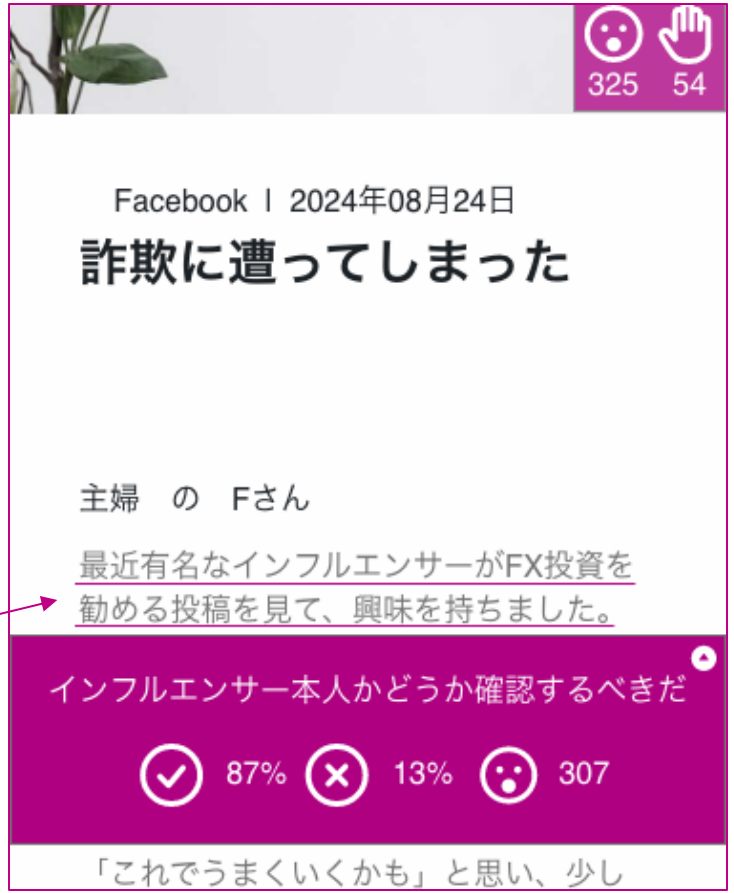


# Oops Hub　～共有～




Turning Point

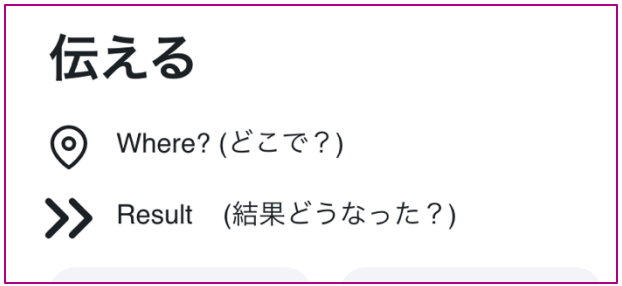


# Oops Hub の説明

# 伝え手のフォーマット

**Where**：原因となったプラットフォーム、SNS。　ex)　TikTok、Facebook、X(旧Twitter)
**Result**：現在の自分がどうなってしまったのか。　ex)　生活リズムが崩れた、詐欺にあった、トイレットペーパーを買い貯めた

**Where**がタグとなり、**Result**の欄に記載された体験談がタイトルとなる。



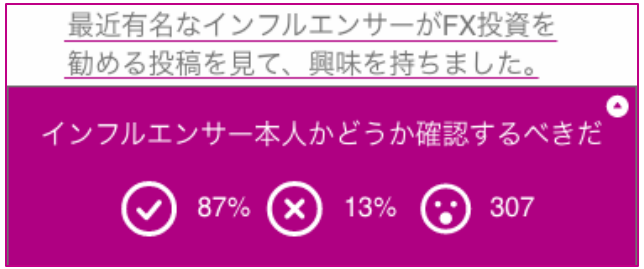
# 伝え手のフォーマット

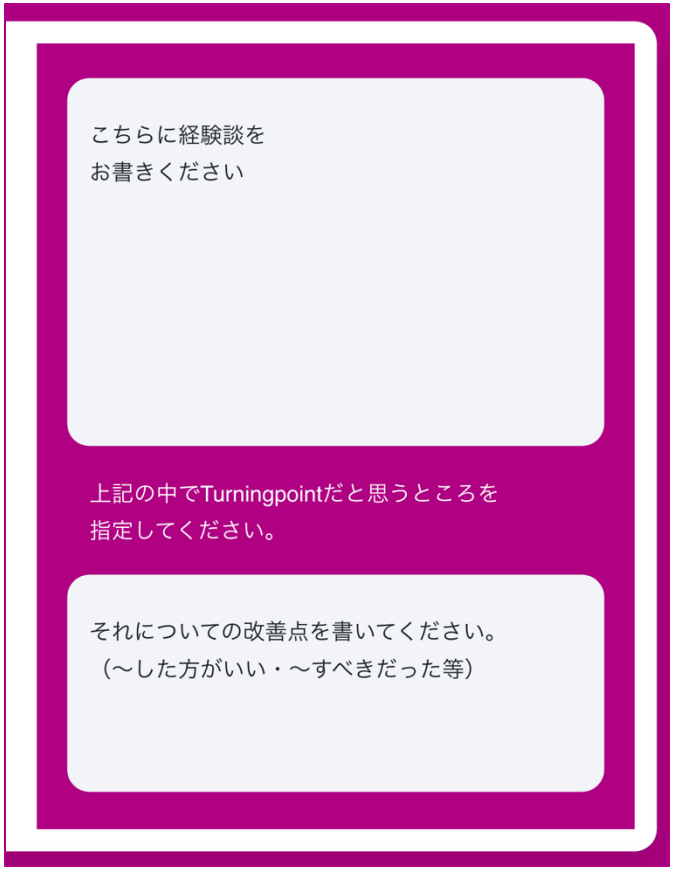
**Turning Point**：この時ああすればよかったという後悔がある時点。

ex)　寝るべきなのに夜遅くまでTikTokを見ていた時。

伝え手は、自分の文章のどこかで **Turning Point** だと思うところを指定してそれについての**改善点**を書く。

ex)　夜遅くまでTikTokを見ずに早く寝る習慣を保つべきだった。



# 読み手のできること

・投票する

・Turning Pointとその改善点を追加する

・目から鱗ボタン・経験アリボタンを押す

# 読み手のできること
# ①投票する

読み手は、伝え手のTuring Pointについての改善点に**投票**できる。

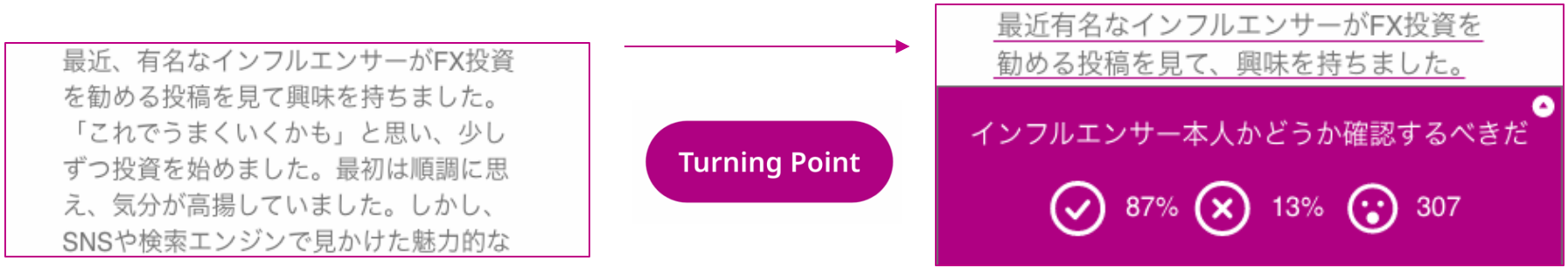
ex)　夜遅くまでTikTokを見ずに早く寝る習慣を保つべきだった。

Yes（81%）／No（19%）

# 読み手のできること
# ②Turning Pointとその改善点を追加する

読み手は、伝え手の文章の別の箇所で **Turning Point** だと思うところとその**改善点**を追加できる。

ex)「寝るべきなのに夜遅くまでTikTokを見ていた時」「夜遅くまでTikTokを見ずに早く寝る習慣を保つべきだった」という元々の **Turning Point** と**改善点**に加えて、「スクリーンタイムの機能を活用しなかった」「スクリーンタイムの機能を活用するべきだった」等の他の **Turning Point** と**改善点**を追加することができる。

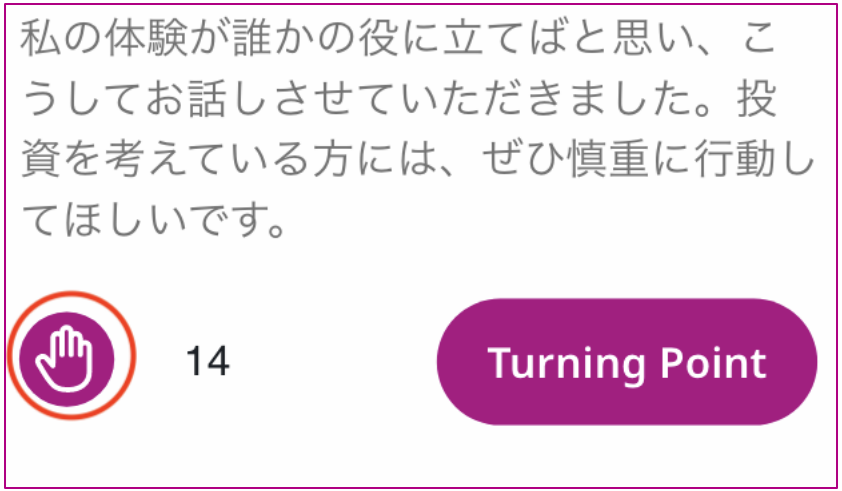


# 読み手のできること
# ③目から鱗ボタン・経験アリボタンを押す

目から鱗ボタン：今まで経験したことがないけれど参考になった Turning Point の改善策に対して押す。

# 読み手のできること
# ③目から鱗ボタン・経験アリボタンを押す

**経験アリボタン**：自分も経験したことのあるトラブルの記事に対して押す。



# 読み手のできること
# ③目から鱗ボタン・経験アリボタンを押す

**目から鱗ボタン**の総数が多いものは有効な解決策を提示しているものであり、新しい視座を提供するだろう。
**経験アリボタン**の総数が多いものは、トラブルに巻き込まれた人が多いものであることを示す。

# 期待される効果

・議論に参加するハードルを下げる。（プラットフォームは**匿名**である。）

→個々人が情報空間で得た体験を**共有**しやすい。

・伝え手と読み手は、自身の行動を振り返る機会を得られ、双方の行動を通じて**新しい予防策を見つけられる**可能性がある。

・特に読み手は、自分にも起こる可能性のあるトラブルを知っておくことで、**もしもの場合の対応を考えることができる。**